

## 庄内出羽人形芝居による森林環境教育

11月11日（木）酒田市宮海字新林の西荒瀬保育園児を対象とした「庄内出羽人形芝居による森林環境教育」を実施しました。

酒田地域は日本海で発達した低気圧の影響で前日、雨と強風に見舞われていましたが、当日は園児達の心がけが良いせいもあり、晴天の天気恵まれました。

「庄内出羽人形芝居による森林環境教育」には年小・年中・年長組園児145名、保育園先生6名、園児の祖父祖母等22名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、庄内森林管理署1名、庄内総合支庁森林整備課3名、大学生1名、総勢182名で人形芝居を鑑賞しました。

庄内出羽人形芝居は、今から約130年前、雪に閉ざされた農民の娯楽として霊峰、鳥海山の麓で始まった与八人形が、吉田勝若、小若に受け継がれ「猿倉人形」と名付けられ、東北や各地で盛んに演じられていました。「猿倉人形劇」の伝統ある高度な技術を継承した津盛柳貳郎氏によって、工夫、一層磨かれ独特な芸風を取り入れたものが、今の庄内出羽人形芝居で、この人形芝居と森林環境教育のコラボレーションが、「松五郎の夢」です。

当日の芝居は保育園児のために津盛柳貳郎氏によってアレンジされた「松五郎の夢・しんちゃんの森バージョン」が上演されました。園児達は、普段活動している「しんちゃんの森」が出てきたり、バックミュージックにクロマツの歌の演奏が流れるなどしたので、緊張していた気持ちもすぐにとほぐれ、大きな声での声援が飛び交いました。芝居も盛り上がり黒松大明神が登場すると園児達から声援のレベルもあがり、松五郎に黒松大明神が授けた夢「志」に感心していました。園児達の祖父母等の皆さんは昔見た懐かしい思い出に浸っておられるようでした。

次に、お坊さんと娘さんが織りなす傘踊りを鑑賞しました。人形が飛んでくる傘を受け取り、それを巧みに回して傘に綺麗に渦巻き模様が現れた時には、園児達から盛んな拍手がわき上がりました。

人形芝居が終わり津盛柳貳郎師匠と一緒に記念撮影を行った後、津盛柳貳郎師匠とお母さんに感謝の意味を込めて、園児達全員が「クロマツの歌」を歌ってお礼とし、「庄内出羽人形芝居による森林環境教育」を終了しました。

園児達には、松五郎がクロマツを大切に育てる姿に共感してもらえたようでした。

